

小児がん患者を継続支援へ 横浜市、連携病院に補助金新設

予算案

小児がん

医療支援

補助金

政治・行政 | 神奈川新聞 | 2022年2月26日(土) 0

2022年4月から
横浜市内の
小児がんLTFU外来を
開設している病院に補助金が新設



【目的】

小児がんLTFUの推進
と実態把握、**課題**検討



長期的には
移行医療のサポートも？



横浜市小児がん連携病院に対する補助
補助額：1病院あたり上限100万円

- ①協力費：30万円
定期的な長期フォローアップ外来の実施
長期フォローアップの実態把握（実施状況報告）
- ②奨励費：@1万円、年間70件（70万円）上限
長期フォローアップの実施件数に応じた補助

23

コロナ禍における診療体制、感染対策の情報共有による
小児がん診療体制の維持に大きく貢献

新型コロナウイルス対応時 小児がん現況調査

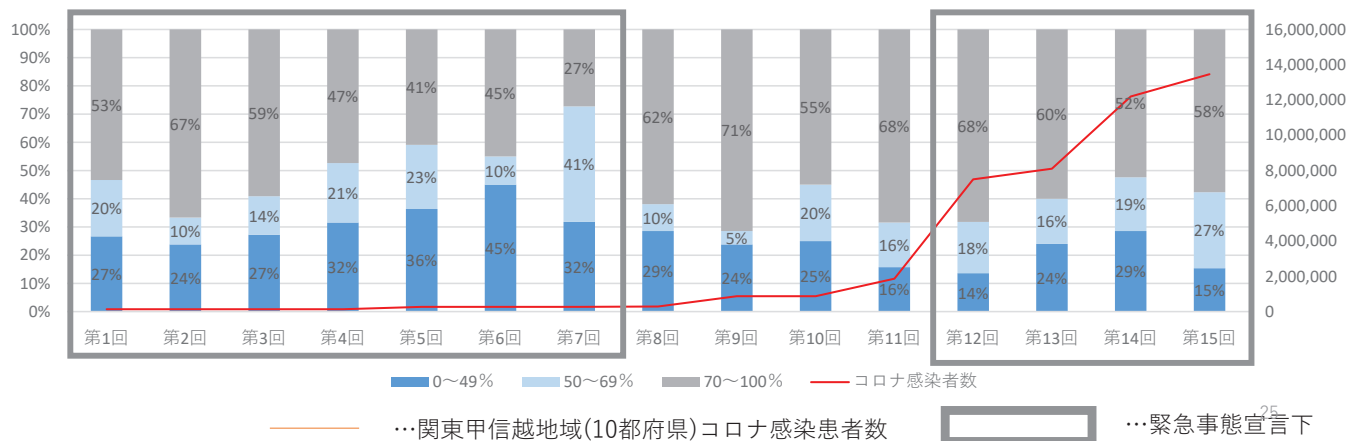
第10回(2020/8/28配布分)～第15回(2021/8/10配布分)
まとめ

24

小児科病床稼働率



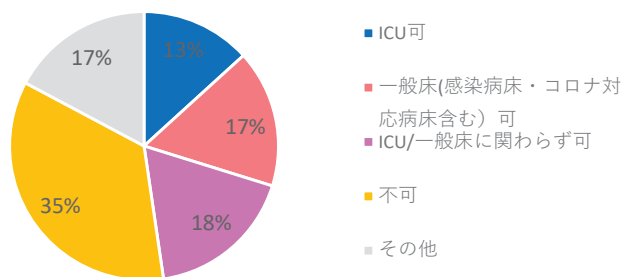
小児がん病床稼働率



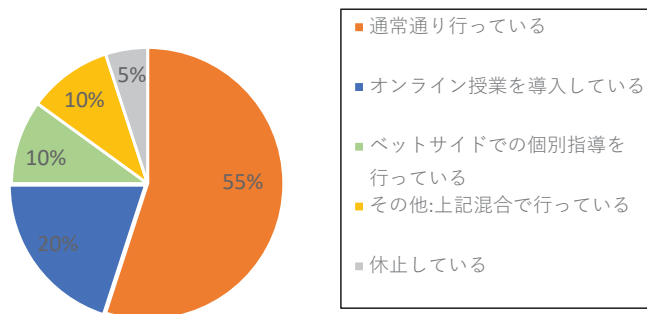
他施設からのコロナ陽性患者

受け入れについて

(10～15回平均)



コロナ禍での小児・AYA世代がん患者の 学業に対するサポートについて



(第14回(7/16)配布時点)

その他：

保健所からの依頼あれば軽症者2名までは受け入れる

年齢により制限

病棟長とICTの許可が必要

県内在住患者のみ対応

無症状者は受け入れ困難な可能性あり

重症例は不可

事前に要相談

当院通院中・治療中の患者は受け入れます。

コロナ対応病床またはICUで可

・保護者が陰性の場合は付き添い不可)

・成人との混合病棟

具体的に困っていること、問題となっていること：
教室に集まる機会がなくなってしまった

ようやく院内学級の先生が院内に入れる許可が出た

オンラインなので、発達障害児は対応困難でした。また、入院中外出外泊制限している中での高校受験生の入試対応が非常に難しいです。

原籍校から復学支援カンファランスへの出席を断られたことがあった
原籍校周囲の感染状況で、復学や通学をご家族が心配され自粛している。

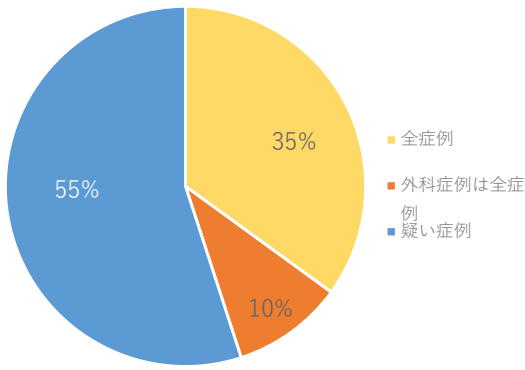
院内学級に退院後の病児もきており、感染予防の観点から入院中の小児の院内学級の使用が制限されていること。

対面授業ができない事による種々の悪影響

退院したあとの復学に抵抗感をもつような印象を受ける。「コロナが心配だから長めに自宅で過ごす」ことを選択するケースがあり、復学が遅れる傾向にある。また、外泊や外出が制限されることで在籍校に出向くことが困難となり（通信制高校などは外泊時に通学するケースがある）、退院後の復学、学習意欲、友達関係などに影響が出ることが予想される。

面会制限が不都合である

コロナウイルススクリーニング検査について

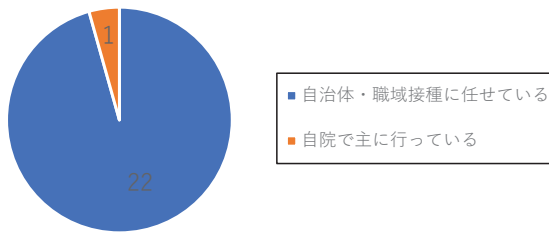


(第10回(8/28)配布時点)

具体的な取り組みについて：

- 自分で唾液出せる小児は全例入院時に検査
- 入院時に抗原検査
- すべての新規患者に対してPCR検査を行う
- 予定手術の患者やおよび入院時に上気道症状のある患者は全検査する
- 全ての予定入院患者（5歳以上）に対して、唾液でのPCR検査を義務付けている。
- 外科系患者はPCR検査必須。
- 感染症状がある場合や緊急入院の場合もPCR検査。
- 入院患者に対しては嗅覚・味覚障害などCOVID-19とのシックコンタクトがある症例で検査を実施
- 感染疑いスコアを設け、疑い症例に実施。
- 感染疑い例のみをPCR検査
- 原因の特定できない発熱、CTで肺炎所見がある
- 診断未確定の発熱や呼吸器症状のある人に陰圧収容+抗原検査をまず実施、午前中なら当日、午後以降なら翌日など必要性を判断しPCR検査
- 熱源ははっきりしない発熱症例
- 発熱や疑われる症状がある時などのみ実施。化学療法患者さんは一人が1か月に何度も短期入院することもあるので、入院毎のスクリーニングは実施せず。

12歳以上へコロナワクチン接種について



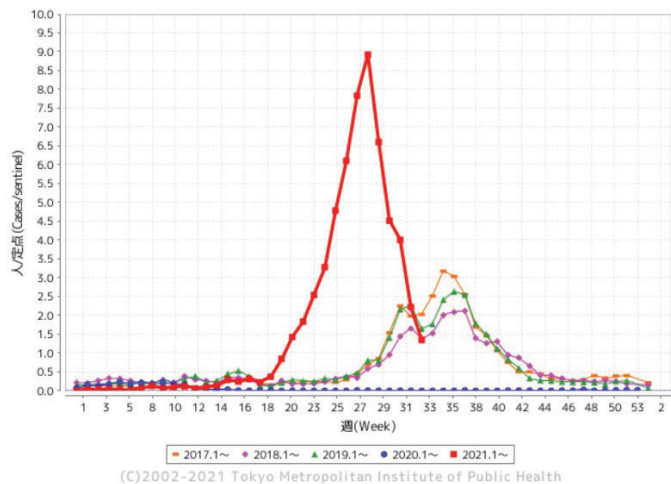
(第14回(7/16)配布時)

具体的な取り組みについて：

- 基礎疾患患者で申し込んでも自治体などで行えない場合は、当院での接種を進める。
- 検討中
- 病院として自治体のワクチン接種に協力している
- 当院での接種が望ましい患者数の調査・把握が進んでいる

コロナウイルス・RSウイルス感染急増内での現状

	第14回	第15回
当調査 RSV感染者数	119	91
東京都 RSV感染者数	286	2612
(コロナウイルス陽性)	39	52



コロナウイルス変異株の流行とともにRSウイルスが激増している中で、困っていること：

病床がひっ迫し、断ったり紹介する患者が激増している

近隣小児科施設どこも満床で困ってます。

RSV患者急増のためほぼ満床

病床の確保が困難

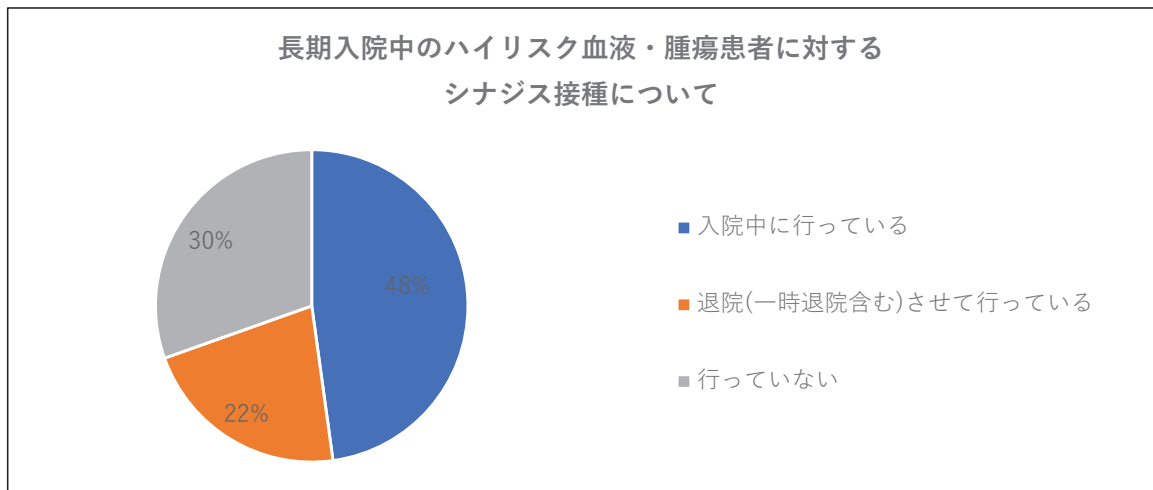
RSウイルス患者で個室が埋まることがある。

入院病床がない

重症RSウイルス感染症の受け入れを行っているが、今後、コロナウイルス感染の拡大でICU等の使用が困難になる可能性あり。

RSV感染症等によりがん治療遅延が起きている。発熱・気道感染症の病棟内での隔離条件が非常に厳しい

他科において予定入院ができない、あるいは調整が必要な場合がある。



上記、シナジス接種に関して、具体的な対応や困っていること:

入院中に接種できない

包括の場合、コストが取れない

対象患者がいれば行いますが、DPCとの兼ね合いで、退院後に行うことになる

シナジスは外来でうつ方針だが、院内でRSウイルス暴露があった際などの対応が難しい

接種時期は一時退院近くとは限ってません。

症例により接種している

29

相談支援部会

第8回 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

日時：2021年10月7日（水）15:00～17:00 Web開催（Zoom使用）

出席者数：53名（小児がん拠点病院4施設・小児がん連携病院33施設・その他：1団体）

<議事>

- 関東甲信越地域小児がん 医療 提供体制協議会規程と相談支援部会細則について
- 第13回・第14回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告
- 関東甲信越ブロック 小児がん相談支援研修報告
- 妊孕性温存治療について
 - ・ 埼玉県立小児医療センターにおける妊孕性温存治療に対する取り組み
 - ・ 妊孕性温存治療：相談員の立場から
 - ・ 関東甲信越地域 妊孕性温存治療費用助成制度実態調査
 - ・ 意見交換 「妊孕性温存治療に関する相談支援について－相談員が取り組むべきこと」

2022年度 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

第9回：2022年7月8日（金）／第10回：1月27日（金）オンライン開催

2022年度 関東甲信越地域ブロック小児がん相談支援研修会（テーマ：在宅医療）

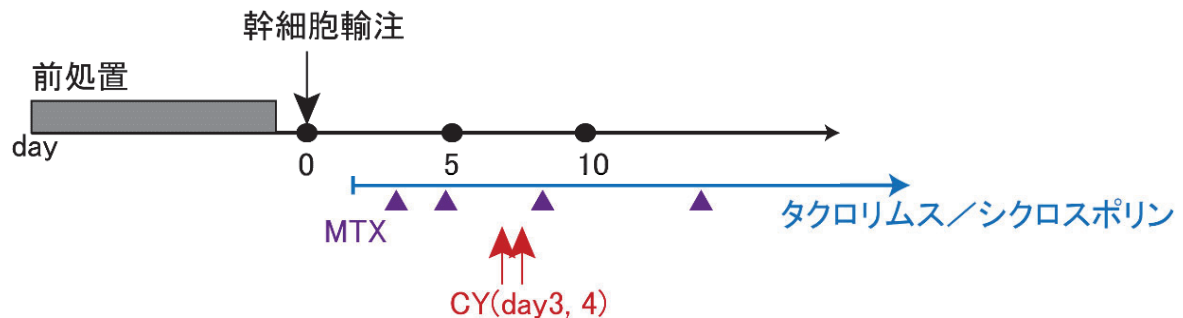
日時：2022年11月5日（日）

30

同種造血幹細胞移植における移植後シクロホスファミド単剤によるGVHD予防法が多施設共同第II相試験 (SAP-P2)

(臨床研究法対応済)

- ALL、AML、リンパ腫
- 第一もしくは第二寛解期、初回移植
- GVHD方向のHLA一致BM/PBドナー
 - 血縁に限っては、HLA一抗原不一致まで許容



- **4拠点病院 (成育+埼玉+都立+神奈川) + 東大病院での多施設共同**
- プライマリーエンドポイント
 - 移植後100日時点での急性GVHD (\geq grade II) の有無
- 予定登録数30例、現在22例移植済

31

小児がんゲノム医療の連携

- がんゲノムプロファイリング検査の実施
 - **成育**
 - がんゲノム医療拠点病院としてEP実施 (累計76例)
 - 自施設症例 40例、他施設症例 36例
 - 関東甲信越ブロックの8施設と連携 (全国12施設)
 - **埼玉小児/神奈川こども/都立小児**
 - がんゲノム医療連携病院として、自施設症例の検査を実施
- 新たなパネル検査の実装研究 (JCCG-TOP2)
 - JCCG研究として全国の施設を対象に実施
 - ⇒2021年1月27日~5月24日で49件登録
- 小児がんに対する治験
 - 国がん中央を中心に実施
- がんゲノムに関連する人材の育成
 - がんゲノム医療研修を2022年2月24日開催(Web)に実施：161名参加
 - 4拠点から成育EPに参加していただき、人材を育成
 - 小児がんゲノムコンソーシアム：2か月ごとに会議を開催

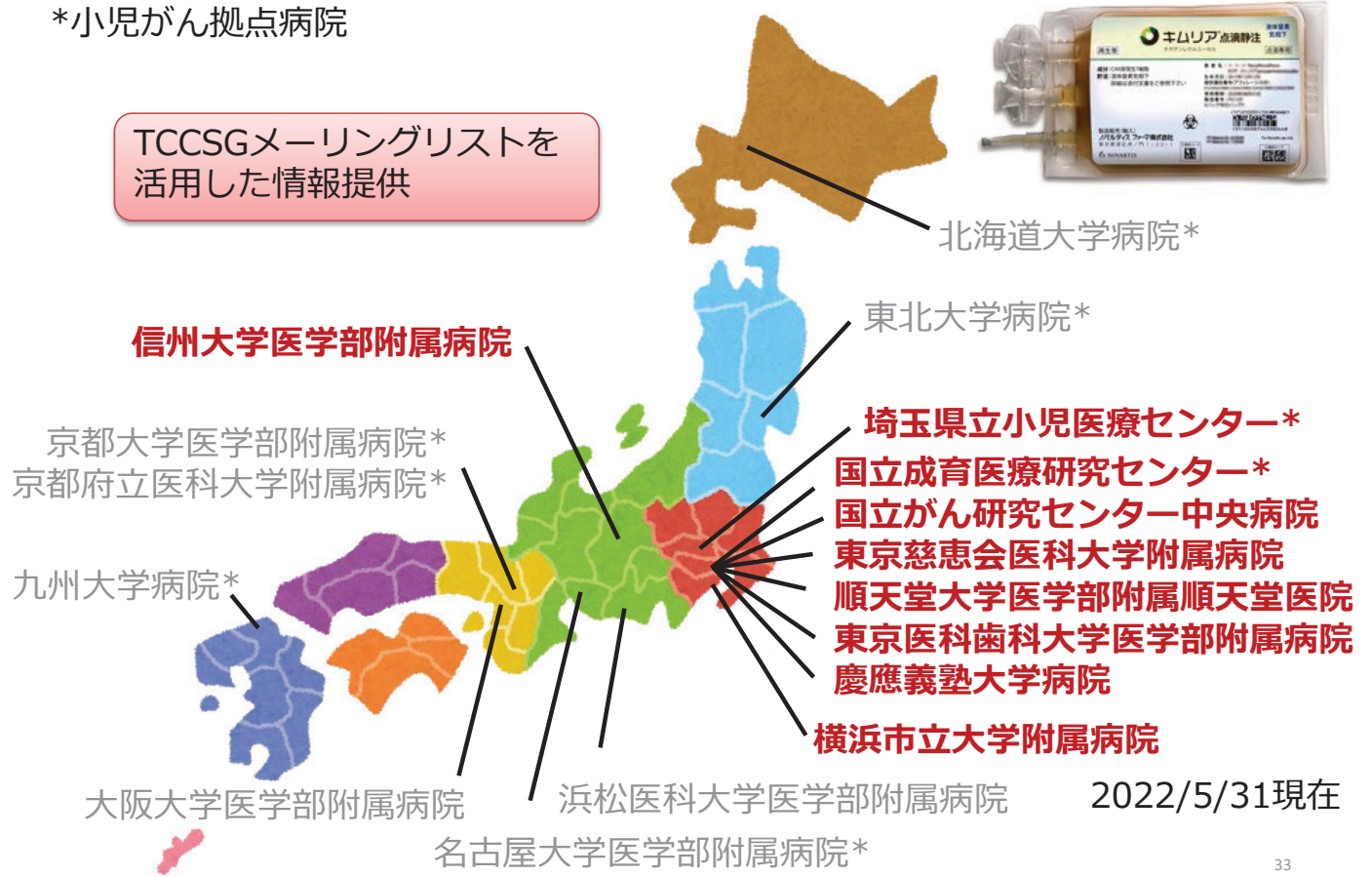
32

関東甲信越地域のキムリア®実施可能施設（小児科）

*小児がん拠点病院

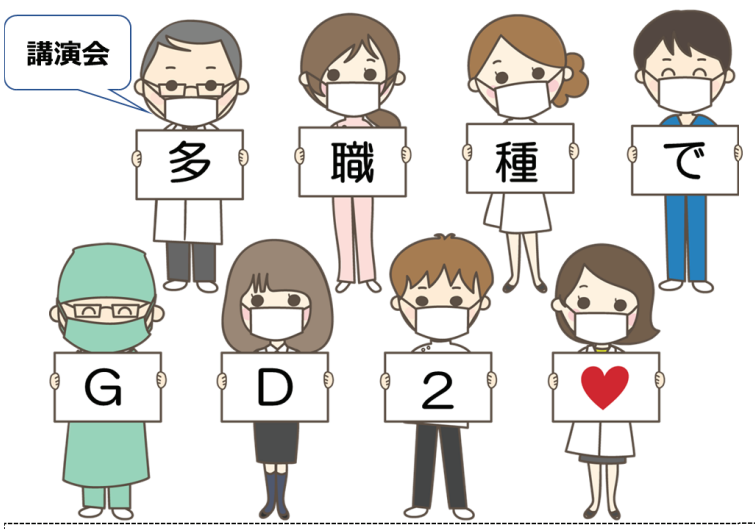


TCCSGメーリングリストを活用した情報提供

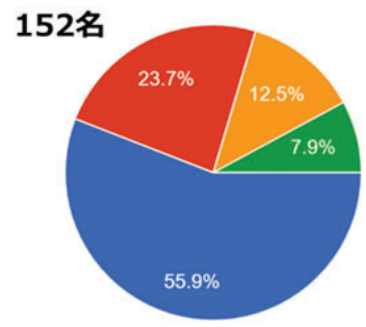


33

TCCSG&関東甲信越地域4拠点病院共催



全国から130名以上の多職種のご参加



日時：2022年3月6日 (sun) 10時～ お申込みはこちらから
 開催形式：完全Web
 講演内容 (10:05-11:45)
 ① 抗GD2療法入門 (成育医療・松本医師)
 ② 抗GD2療法の実際と副作用対策 (埼玉小児・本田医師)
 ③ 看護と点滴管理のポイント (埼玉小児・福地看護師)
 ④ 薬剤調整の実際 (都立小児・鮎田薬剤師)



各ご施設から多職種でのご参加をお待ちしております！
 ★講演後 (11:50～) ★

職種別に分かれたセルフ・ランチョン・ブレイクアウト・ルーム
 での質疑応答を予定しております！

お問合せ先：TCCSG事務局 (tccsg-stlukes@msf.biglobe.ne.jp)

34

2022年度 関東甲信越ブロック 計画

項目	2022年度に取り組むこと
診療体制	再発・難治性がんの診療 造血細胞移植／CAR-T細胞療法（患者紹介体制の構築） ゲノム医療（施設間の情報共有と連携） 生殖機能温存の支援ネットワークの構築 LTFUの施設間の連携強化
人材育成	各種研修の実施（特殊治療・緩和ケア・LTFUなど） 多職種の人材交流・Webカンファレンスの活用
相談支援	相談実績の向上 相談支援体制の整備・研修の実施 情報提供／情報収集（高校教育支援など）
臨床研究	JCCG臨床研究の推進・ブロック全体の参加率向上 4拠点病院を中心とした臨床研究推進 治験・臨床試験に関する情報共有体制整備
その他	医療安全体制の整備 未承認新規医薬品・適応外使用等の安全性・妥当性・倫理性を検討する委員会の活用